

からこそ生きて来られた
を試して味方してくれた

対リレー
談

西村和子氏

知音俳句会 代表、俳人協会 理事

昭和23年、横浜に生まれる。昭和41年、「慶大俳句」に入会、清崎敏郎に師事。平成8年、行方克巳と「知音」創刊、代表。句集『夏帽子』(俳人協会新人賞)『窓』『かりそめならず』『心音』(俳人協会賞)『鎮魂』『季題別西村和子句集』『椅子ひとつ』。著書『虚子の京都』(俳人協会評論賞)『添削で俳句入門』『季語で読む源氏物語』『俳句のすすめー若き母たちへー』『気がつけば俳句』『子どもを詠う』『季語で読む枕草子』。共著『名句鑑賞読本』茜の巻・藍の巻・『秀句散策』。

少女時代に出逢った石川啄木の素敵な短歌
口マンチックな詩は自然に覚えられ
やがて定型詩に魅せられて
毎回掲載される投稿俳句を褒められる
幸せな出逢いによって育てられ
俳句への強い愛情と夫の深い理解で開花する



自分を支え慰める俳句があった 17音の小さな宝 俳句の神様が私



伊勢真一氏

ドキュメンタリー映像作家

1949年東京生まれ。『奈緒ちゃん』『えんとこ』をはじめ、数多くのヒューマンドキュメンタリーを製作。『風のかたち』文化庁映画賞・カトリック映画賞受賞。『大丈夫。』キネマ旬報文化映画第1位、『傍(かたわら)～3月11日からの旅～』キネマ旬報文化映画第6位。2012年日本映画ペンクラブ功労賞、2013年度シネマ夢俱楽部賞受賞。近作は『シバ 繩文犬のゆめ』(2013年)、『妻の病 -レビー小体型認知症-』(2014年)、『ゆめのほとり -認知症グループホーム 福寿荘-』(2015年)、『いのちのかたち -画家・絵本作家 いせひでこ-』(2016年)。最新作は『やさしくなあに～奈緒ちゃんと家族の35年～』(キネマ旬報文化映画第3位)。

分かってくれる人の心に届けば嬉しいと
時を超越する言葉の素晴らしい
何百年に亘っても未だ尽きず新しい作品が生まれ
日本文化の誇りに思える詩形のひとつ
人生のステージでその時しか詠めない句がある
心の中の風景あるがままを五七五に込めて

この町に生くべく日傘購ひにけり

俳句と映像の持つ

「ものがたり」性

伊勢 今日は、個人的に親しくさせていた、だいてる俳人の西村和子さんにお声をかけさせていただきました。初めてお会いしてから10年近くになりますね。

西村 私が選者として出演していきたNHKの俳句の番組に、ゲストとして来て頂いたのが最初でした。共通の友人である小児科医の細谷亮太さんのご紹介で、映画『風のかたち』が完成する頃でしたね。

伊勢 そう、「NHKの番組に出演したら少しは映画の宣伝になるかもしれないから」と言われて(笑)。俳句はやつたことがないけど、私は映画が俳句ですから。

西村 番組の前に『風のかたち』の試写を拝見して「とても俳句的な映画だ」と思いました。一切説明しないし、ナレーションも言葉を最小限に惜しんで、季節の移ろいが分かる様なカットがいたる所にあって、「俳句に

興味がある方なのかな」と思つたんで、現実の切り取り方、描き方、前面に主張を押し出さず「観て分かつてくれる人に分かつてもらえばいい」という創り方は、俳句と似ています。それ以降、伊勢さんの作品は殆ど観ていますよ。

伊勢 上映後のトークゲストとして「映画と俳句について」話してくれた

西村 暗い中でメモを取りながら本当にしっかりと観てくれて、「ここここが俳句」とか言つてくれますね(笑)。でも「」の映画にはこれだけ季語がありましたよ」と。

伊勢 テレビは分かり易くストレートに伝えたいことを伝えるメディアで、映画は暗い中で観るから「自分の世界で観る」というところがあつて、具体的に伝えるというより作品に触ることで観る人それぞれが考えを深める感じがします。逆に西村さんの俳句も、とても映画的だなと思つたりするわけです。

西村 そうですか。

伊勢 表現として近いのではないでしようか。セルゲイ・エイゼンシュテインというモンタージュ理論を考えたロシアのドキュメンタリー映画の父の様な監督がいるのですが、彼の本を

読むと「古池や蛙とびこむ水の音」という芭蕉の俳句がモンタージュの基本であるという様なことが書いてあります。「古池や」と全景から、「蛙とびこむ」というアップを見せて、「水の音」という余韻を残す、と。

西村 聴覚に訴えているんですね。伊勢 そういう面で「日本の俳句は素晴らしい、とても映画的であり、更にはドキュメンタリーの魅力を伝えている」と言う様なことが書いてあります。今や、エイゼンシュテインやモントレージュ論等を知っている人は少ないかも知れないけど、映画が生まれて間もない頃に、俳句の魅力に気づいていた映画人が、ロシアにいたというのはすごいよね。

西村 「夏帽子」と言う題で、伊

勢さんは「夏帽子が人生を語り、背景を語っている」そういうことをおつしやつて、「なるほど」と思いました。伊勢さんが映像で伝えたいことは、「ものに語らせる」んだ、と。季語に語らせるというのは俳句のひとつ

の手法で、夏帽子は夏の季語だから、当然「麦わら帽子」「夏休み」「夏の想い出」等に想像が広がっていく言葉ですよね。伊勢さんの映画も、何でもな

1948年没(享年50歳)で映画の制作をはじめたのは1924年だといます。映画自体がまだ100年ちょっとの歴史しかないし、それこそ

映画をプロパガンダとして使つたりしていたわけでしょ。映画の理論的なことをちゃんと考えたたというのは、おそらくエイゼンシュタインとかその頃の人が最初じやないでしょ。番組の出演依頼の時は、エイゼンシュタインのことを全部知つてゐるわけでもないし、俳句の教養は殆どありません」とお伝えして、「それでもよければ」つて出演しました(笑)

西村 寄せられた多くの作品の中から、私が選んだ句についての感想を語つて下さればいい、という番組でした。

伊勢 何をお話ししたか忘れてしまいましたが……(笑)

西村 「夏帽子」と言う題で、伊勢さんは「夏帽子が人生を語り、背景を語っている」そういうことをおつしやつて、「なるほど」と思いました。伊勢さんが映像で伝えたいことは、「ものに語らせる」んだ、と。季語に語らせるというのは俳句のひとつ

の手法で、夏帽子は夏の季語だから、

西村 いつ頃の人ですか?

伊勢 ロシア革命の前後の頃、

西村 番組の前に『風のかたち』の

西村 そうですね。伊勢さんは「

れているところをただ撮っているだけの様でも、そこから風の音やにおい、日差し、季節を感じられて、季語の効果に似ているなと思いましたね。

伊勢 「物語」は「モノ」が「語る」ことに耳を澄ますということだと思いますので、俳句も映画も「筋書き」と言うより「物語」なんですね。

世界各国に広まる

「Haiku」の世界

伊勢 ブラブラしながらある瞬間にモノが語ることに耳を澄ます、私達の世界では「口ケハン」と言いますが、俳句では「吟行」と言うんですね。

西村 俳句の題材を求めて、いろんな所に足を運びます。
伊勢 吟行を日本だけじゃなく世界中で、先日も、スウェーデンに行って来られたそうですね。

西村 エイゼンシュテインもさうで

しょうけど、外国人の人達が日本の俳句に意外と興味を持つてくれていることが最近とみに感じられます。今年はスウェーデンとの国交が150周年で、「それを記念して国際俳句交流協会と交流しませんか?」ということで行つてきました。俳句を始め

た頃は「私の句は翻訳しても、外国人には伝わらないだろう、本当の意味で理解してもらうこととは絶望的だ」と思つていましたが、世界で一番短い詩である俳句、彼らが言う「三行詩」に興味を持つてくれているというのが意外でした。現在はNHKワールドという世界中に発信しているチャンネルで『Haiku Masters』という番組に出演しています。100か国以上の人

が投稿してきます。「俳句は世界の片隅の文学だ」と思つてましたが、世界中の人達が興味を持つてくれていることはとても嬉しいですね。今回、前駐日スウェーデン大使のラーシュ・ヴァリエさんが芭蕉の俳句982句をスウェーデン語に訳して、更にスウェーデン語の解説をつけた本が8月に出版されるそうです。

伊勢 芭蕉の翻訳本はいろいろと出でていますよね?

西村 でも、芭蕉全句をスウェー

デン語に訳したというのは、初めてのことだと思います。

伊勢 アメリカは結構盛んで、

ニューヨークの学校でも教えているよ

うですね。今回ノルウェー

にも行きましたが、ここでは「公立の小学校で俳句を習つて作つた」そうです。おかしかったのは「"Haiku"って日本語で何と言うんですか?」つて訊かれたの(笑)

伊勢 それは面白いですね。

西村 「俳句つて日本語ですよ」と話したら「自分たちは三行詩=Haikuと習つていたから」とおつ

しゃつてました。

伊勢 外国人人は、俳句をどんな風に楽しめているんでしょうか。

西村 今回の吟行は日本から二十数名、句会に参加された現地の人も日本語が達者だったので、日本語で選をしました。でも、スウェーデンでHaikuを楽しんでいる人達は、英語又はスウェーデン語の三行詩だと思います。

ます。

伊勢 NHKワールドの『Haiku Masters』はどういうスタイルですか?

西村 今はフランス人もロシア人も、総て英語です。翻訳でもうつて選びますが、一番多いのはアメリカで、

フランス、クロアチアからもいい作品が多く投稿されます。「フォト俳句」という形で、写真も一緒に投稿しても

らっています。そうしないとわかりにくいのです。『Haiku Masters』は月に一度、30分の番組として放映されていますが、パソコンでも選ばれた過去の作品が見られます。世界中の

人がHaikuに興味を持つてくれているんだなあ、と肌で感じています。伊勢 日本でももつと広まるとい

いですね。

西村 日本の俳句人口は1000万人と言われていますが、年齢層が偏りすぎています。

テレビやラジオでも俳句の番組があつて、三天新聞だけでなく経済新聞や地方新聞にも俳句欄があつて、全国から毎週新しい作品が投句されるという国は、多分他にはないですね。ただ、それも高年齢化しています。たまに若者の投句がありますが、やっぱり「型」の芸芸なので、ある程度の修練が必要だと思います。

伊勢 俳句は、基本的に春夏秋冬でしょう。それを何百年に亘つて言い回して、それでもまだ尽きずに新しい作品が生まれているのがすごいですね。

西村 同じようなものができる危険性はあります。それも短詩形の運命ですが、ふたつとして同じものがな

いというのは面白いですね。日本語には同音異義語もありますから。

伊勢

春夏秋冬と言つても、日本のようにはつきりとした四季がある国は少ないでしょう。

西村

季節の移り行きが日本と全く違つても、それはその国の気候風土で作ればいいわけで、個性が出て面白いと思います。

です(笑)

伊勢 どんな詩ですか?

西村 「君に似し姿を街に見る時

のこころ躍りをあはれと思へ」です。啄木が函館の小学校の代用教員になつて、そこで出会つた女性の先生に捧げた詩です。啄木は結婚してたけれど、ほのかな憧れと言うか、そんな想いがある詩でしよう?

興味と才能を

後押ししてくれた出会い

伊勢 ご自身は、いつ頃どんなきっかけで俳句をはじめたんですか?

西村 本格的にはじめたのは18歳

の時です。中学、高校の頃は、石川啄木の短歌に興味を持つたのですが、大学には俳句研究会しかなかつたのでそこに入つたのがきっかけです。もともと定型詩にすごく興味を持つて、クラブ活動として俳句をはじめました。

伊勢 元々は、俳句に限定してい

たわけではなかつたんですね。西村 どつちにしても短い定型詩が好きで、中学の時に啄木の詩を「素敵だな」と思つて、「こういうのなら私にも出来るかな」と思つて始めた

西村 中学生の時にそれを「素敵」と思つたわけですか?

伊勢 中学生の時にそれを「素敵」

西村 これは私の心を代弁して

わ、密かに憧れている人に似た人を見かけた時にドキッとするでしょ。「こ

う言うのを、心躍りと言うんだ」って

西村 『悲しき玩具』という啄木の芝居で菊田一夫の作・演出、当時19歳の現在

の松本白鸞、当時の市川染五郎主演で

西村 『悲しき玩具』という啄木の芝居で、若き日の八千草薫が演じた憧れの対

象である先生に向けて、染五郎が「私

伊勢 それにしてもすごいね。

西村 ちょっと褒められたりするとそういう

西村 うことが長続きするきっかけになつた

伊勢 褒められるか、怒られるか、

西村 それによつて変わるってことだよね。

伊勢 え、どうして?

西村 高校の時文学少女だったの

で、学校で購読していた文芸誌に詩と短歌と俳句を投稿してたんですね。

西村 そうしたら、俳句は毎回載つたので

「俳句の才能がある」つて勘違いした

西村 わけ。多分、高校生で俳句を毎月投

稿する人はあまりいなかつたんじやな

西村 いかしら(笑)

伊勢 それにしてもすごいね。

西村 ちょっと褒められたりするとそういう

西村 うことが長続きするきっかけになつた

伊勢 褒められるか、怒られるか、

西村 それによつて変わるってことだよね。

西村 うござんが長続きするきっかけになつた

伊勢 褒められるか、怒られるか、

西村 それによつて変わるってことだよね。

伊勢 え、どうして?



ど、最初の経験で詩がコンテンパンに効られたことは結構根深く残っていますよ。「先生が喜ぶ作文や詩」などがありますが、それに合わせて書くような奴が二重丸もらつたり、何かのコンクールに出したりね。ある種の教育者が期待する作品というのがあるでしょう。そういう意味で西村さんはすごく恵まれていましたね。

すると俳句どころではないし、女性は例外なく結婚して子どもができると先輩達は俳句から遠のきました。句会にも出でていけないわけだし、俳句を作らなくとも生きていけるんだと思いましたよ。

伊勢 その前は俳句を作つてない
いと生きていけないつて思つてたんで
すか?

西村 本当に幸せな育てられた方をいたしましたし、その後も大学で出会つた

先輩 清崎敏郎先生が、生涯の師となり、幸せな出会いがいっぱいあつた

伊勢
褒めるかどうかだけではなくて、会いながら育てられていくというのは、間違いないですよね。

「生糞」ノル

伊勢 すごいと思うのは、大学を出てからもずっと続いているところです。女性が結婚したら「昔はやつてましたけど」ってなりますよね。でもそれをずっと続けてるのはやっぱりすごいと思います。

西村 それだけ好きだつたんですね。女性だけではなくて男性も就職

西村 私の俳句への愛情が強かつた
ということでしょうね（笑）夫も当時
としては非常に新しい時代の考え方
だったので、「奥さんだからといってや
りたいことを我慢することはない」と
言つていました。でも句会に出て行
うとすると子どもは熱を出し、察
するわけよね。旅行に出かけようと

勉強より俳句の方に熱心になつてクラブ活動に専念していましたが、卒業したら俳句はやめるだらうと思つていたし、それ程好きだとも思つていませんでしたが、夫の理解があつたのを続けられたんです。

思うと階段から落ちる……。そうすると「俳句なんか作つていかなくても、生きていけるんだ」と思つたりした時期はありました。そういう時に、生涯の師である清崎さんが「細々ともいいから続けなさい、1年休めば取り戻すのに2年、3年休めば6年かかるよ」と言つて下さいました。その世界で愉しみながら一緒に上達していく仲間がいたことも幸せでしたね。

伊勢 ともかく、やり続けるつていうのは多分それなしで思つたり考え方たり出来ないという感じになるわけでしょう？

西村 そのぐらい深入りしちゃつたということですね。伊勢さんもでしょう？

伊勢 私は「自分の治療行為として映画を作つて」と公言していくます。映画を作らないで気がふれて人を殺してしまつたりしないために、映画を作つてゐるんだ、つて（笑）ともかくのめり込んでやつていればもつと上手くなりそうなもんだけど……。

西村 「上手くなる」つてどういうことですか？世の中には「上手い」人ばかりいるけど、それだけでは満足できないでしよう？俳句の世界もそういうけど。



ふたり四人 そしてひとりの葱刻む

伊勢 さつきの「物語」、モノが語り始めることに耳を澄ます、そういうことは、映画や俳句を始めた頃も現在も変わらないでしょ、本当に耳を澄ますということは、きりがない世界だけど、もつと耳を澄ませばもつと聞こえてくるような気がする。「もつと聞こえる筈なのに」と思いながらやつていくことだと思うな。

西村 自分の作品に満足せず、それを一生極めていくんだろう、と思い伊勢 何かを表現する、作るということは、作ることで自分を支えていくことも含めて、他の人にどう思われるかということ以上に、「作りたい」気持ちが圧倒的に強いですね。

伝わる人にだけ伝わればいい

西村 ドキュメンタリーを作り続けて、人の心に届いた時は嬉しいでしょ?

伊勢 「届いたのかな」と思う方で届かなかつたのかな」と思うことも多いから(笑)

西村 届く人に届けばいい、万人に分かってもらおうと言うより、分かってくれる人の心に響いたらとても嬉しいことだと思いますね。

伊勢 お客様が入つてくれなくて……ということも多いけど(笑)よく、歌手の人や役者さんとかが「3日やつたら止められない」と言いますね。

西村 俳句の場合は勿論句集になります。今まで作った何千、何万の句の中から自分で選んだ選句集もありますよ。

伊勢 何万もあるの?

西村 多作多捨ですから、沢山作つて沢山捨てる、さらにその中から最近自分で百句を選んで、短文も入れて本にしましたが、確かに形になるんですよ。俳句の場合は「句会」の場で作った句を何作か無記名で発表して、それぞれが選び「披講」と言つて発表します。披講で作品が読まれた時に作者が名乗りをあげるんです

ので、そういう手応えが句会にはあります。

伊勢 西村さんの句が選ばれないこともありますか?

西村 勿論あります。でも、「ひとりでもわかつてくれる人がいればいい」と言う潔さみたいなのがだんだん

身につくんですね。伊勢さんの作品も、もつと解説したり字幕を入れた

りすれば、誰でもが分かると思いますが、芸術とはそういうものじゃないと

思います。それなりの人生経験を経た人が、感動して涙を流してくれたりすると嬉しいでしょ。伊勢さんの作品は、分かってくれる人に分かってもらえばいい、という潔さをいつも感じますね。正直なところ、これは想像力が豊かな人でないと分かってもらえないんじゃないかと心配になりますよ。

伊勢 未だにパソコンが出来ないので、大先輩で、もう亡くなつた方に手紙を送つて、ワープロで打つた活字の返信で「君の手紙

西村 俳句もそうですね。平易な表現で深く平明であつて深いところを詠め、と教えられてきました。難しい表現を使つたりすると、ちょっとびっくりしたり恐れ入つたりしますが、名句は分かり易く、いろんな世界が想像できるというところが深いですね。

深いことを面白く、面白いことを面白いに、眞面目な事を愉快に、そして愉快なことはあくまで愉快にと続きます」という井上ひさしさんの言葉がありますが、「易しい事を深く」がおつしやつたことのポイントですよね。

西村 私もそこを目指しています。

伊勢 テレビや新聞がやつている「難しいことを易しく」だけだと、本当に伝わつて欲しい事や本当に考えて欲しい事が伝わらなくなつたりします。「易しいことを深く」そのことに

対する想いをどれだけ深めて言葉にし、又、映画にしていくかということだと思いますね。

西村 俳句もそうですね。平易な表現で深く平明であつて深いところを詠め、と教えられてきました。難しい表現を使つたりすると、ちょっとびっくりしたり恐れ入つたりしますが、名句は分かり易く、いろんな世界が想像できるというところが深いですね。

伊勢 現在、多くの人が短い言葉で伝えることを志向していますが、短い言葉で強く言うことが、本当のことを伝えるということになつてているだ

ろうか、今の課題として、「言葉」を

西村 届く人に届けばいい、万人に分かってもらおうと言うより、分かってくれる人の心に響いたらとても嬉しいことだと思いますね。

伊勢 お客様が入つてくれなくて……ということも多いけど(笑)よく、歌手の人や役者さんとかが「3日やつたら止められない」と言いますね。

西村 俳句の場合は勿論句集になります。今まで作った何千、何万の句の中から自分で選んだ選句集もありますよ。

伊勢 何万もあるの?

西村 多作多捨ですから、沢山作つて沢山捨てる、さらにその中から最近自分で百句を選んで、短文も入れて本にしましたが、確かに形になるんですよ。俳句の場合は「句会」の場で作った句を何作か無記名で発表して、それぞれが選び「披講」と言つて発表します。披講で作品が読まれた時に作者が名乗りをあげるんです

西村 伊勢 現在、多くの人が短い言葉で伝えることを志向していますが、短い言葉で強く言うことが、本当のことを伝えるということになつてているだ

検証していく必要があるのではと思つています。「難いことを易しく、易しいことを深く」ということを問わなのは、ひとりひとりの存在や想像力を馬鹿にした権力的な発想だと思います。西村さんは言葉が命で、私は映像が命です。

西村 言葉に対する責任ですよ

ね。どんな時代でも思想とか政治的な所とは違う所で生き続けていりうと思います。平安時代や戦国時代に描かれたものでも感動を覚えたり、時を超える言葉の素晴らしさを感じますよね。伊勢さんも、ひとつの主義主張や政治的な配慮から無縁なところで作品を作りたいと思ってるんでしよう?

伊勢

わざと外すのではなく、「こ

れはどういうことなのかな?」と同じ1つと見てる間に、筋書きではなく物語の方に転んでしまうんです。報道的な仕事をしていたら報道のひとつ筋書きを伝えるようになると思いますね。

西村

それは多分、政治的なものや報道等に則した映像とは無縁で、撮りたいものを撮つておられるわけだから。

「ワンカット」の俳句 「ワンシーン」の短歌

西村

俳句も多作多捨で何万、何千作つても、自分の作品として残すのは水山のほんの一角だけです。映像も

伊勢さんがどういう基準で残してい

るのか、とても興味があります。

西村

本当ですか?でも、意図はあるでしょ?

伊勢

物語の形が出来てくると神様が降りてくるんです。俳句にもありますか?

西村

俳句の神様が「これを残しなさい」と言つてはくれませんが、俳

句の神様に味方してもらつてると感じることはあります。でないと、17音のこんな小さなものに50年も執着して心を注いで生きてはこられなかつたと思いますよ。

伊勢

西村さんはやつぱり俳句の神様に寵愛されて、生きてきたんですね。

西村

試されているかもしませんよ

(笑) 俳句の神様は確かにいると、二十数年は思えるようになりました。伊勢 私も、映画の神様がいるつて、かなり早い時期から思うようになりました。

西村 それはご自身の意思ではな

く、映像の神様の意思だと思いますか?

伊勢 そういう風に言つて、とい

うことはありますね。要するに、比べることで成立する仕事ではないと思つていますからね。

西村 計算や配慮を越えた直感と

か勢いとか、「これでいこう」というような意思は、確かに自分のものではな

いですね。

伊勢 俳句を使つた映画としては

細谷亮太先生の「大丈夫。」がありますが、今度は短歌を使つた映画を作つています。短歌は五七五七で「言つてしまふ」感があるので俳句の方が映像的です。

西村 でも、歌人の永田和宏さん

によると「七七」で述べているわけでなく、「五七五」と「七七」が合わせ鏡の様になつて、ひとつの世界を構築しているそうです。

伊勢 なるほどね。短歌が作品の

中にどれだけ入るかにもよるけど、ワンカットをパーンと決めるのは俳句の方が観ている人に残るんじやないかな。俳句はワンカット、短歌はワンシーン、みたいな感じがするわけ。短歌を使わなくとも「短歌みたいなシーンづくりだね」とか、俳句を使わなくとも「俳句みたいだね」と、言われるようになつてほしい。「どんな映画だつたか忘れたけど、あのカットだけは印象に残つてゐるな」と、これは映像を観る悦びですよね。正しくなくとも「いいな」ということはあり得るわけです。

西村 現実の「あるがまま」ということね。

伊勢 正しいからいいということでもないし、美しいからいいという訳でもない。受け止め手ひとりひとりによつても違うでしょう。俳句の価値の基準つてありますか?

西村 絶対的な基準はありませんね。選者の主観的なもので、それぞれが自分の基準を持つています。例えば、日本で一番大きな「NHK全国俳句大会」に寄せられた何万句といふ作品から絞つて何千句かを15人の先生が選びます。同じ句でも選は重なりません。最終3句とかになると、

先生毎に違う句を選んでいます。それは、芸術だからです。自分の体験から「この句はいい」と思っても、価値観も体験も違うので、ある人には分かつても他の人には分からぬといふこともあります。

伊勢 それが面白さのひとつでもあるんですね。

西村 「価値観の多様性」については、これから世界の人達が学ぶべきものだと思います。外国の方に「日本にはどういう文化がありますか?」と訊かれた時に、「俳句という世界で一番短い詩で、誰でも創造することができます」、他人の作品によつてイメージもかきたてられる」と伝えたいです。歌舞伎や文楽、能もありますが、それらは享受するだけです。でも俳句は、あなたも出来るし私も俳句を作つてゐる」と言える文化で、それは日本文化の誇りに思える詩形のひとつだ」ということを、ごく最近になつて感じました。それは、外国の人が俳句というものに興味を持ち始めてくれたお陰です。ただ日本での俳句は、年齢層がものすごく高齢化しています。もう少し働き盛りの人や、子育て中の人たちが俳句を楽しんで作つてくれるとい

いな、と思います。

「そのとき」を切り取る 俳句のおもしろさ

伊勢 西村さんが子育て中に作つた俳句も、いいですね。

西村 ありがとうございます。それは人生のその時にしかできない句ですね。親が必死に汗をかいて苦労していく時の本音を俳句で詠まないと意味がありません。

伊勢 昨年、『俳句日記2017自由切符』という句集も上梓されました。1年間、毎日欠かさず記録をついて、映画全体がそくなつていて、特にドキュメンタリーは高齢者層が多くて若い人が来ないんです。俳句も、俳句甲子園をやつていてのだから、20代30代でも持続するのは可能

伊勢 若者にもつと知つてほしいですね。西村 「俳句甲子園」の選者として十数年関わっていますが、後輩達にも続けて欲しいと思いますが、環境が変わると作らなくなる人が多いです。句会に出にくく子育て中のお母さん方を集め「パラソル句会」というのもやっていますが、一番少ないのは働き盛りの男性の作品です。

伊勢 映画館もシニアが多くて1000円だから売り上げは上がりません。映画全体がそくなつていて、特にドキュメンタリーは高齢者層が多い。今日はどうもありがとうございました。

伊勢 楽しいお話をありがとうございました。

性としてはあるような気がします。

西村 でも現実的にはそうじやないんですね。

伊勢 俳句の五七五の中に様々なものが含まれているのをどう感じてもらうか、今の若い人も、接するチャンスがあつて俳句を身近に感じて、普段着のよう付き合えるようになるといいですね。高尚なものという感覚だと入りづらいでしようから。

西村 俳句は退職後の楽しみではなく、人生の「生活し盛り」の人も楽しめるものですよ、ということを、多くの方に是非知つて頂きたいと思っていました。今日はどうもありがとうございました。

題材にして下さいました。

「試写室を出て秋森の街単色」

伊勢 俳句には、子どもの頃からありますよね。

西村 毎日句を詠んでいて人生のステージでその時しか詠めない句が

ありますよね。

伊勢 俳句には、子どもの頃から接していたんですか?

西村 俳句ではなく母が短歌をつ

くつていたので身近なものでした。そ

れよりも、啄木の歌の影響が大きかつていて、身近なものでした。そ

